

編集委員会便り

「集中か、分散か」という選択は、エネルギーのみならず色々な場で問題となる重要課題の一つである。快適な空間を求める手段として空調が必要不可欠となった現在社会において、個別分散型の方式を採用するのか、または地域冷暖房方式を導入すべきかの選択は、計画者の重要な意志決定項目である。1970年に大阪で開催された万博会場での地域冷房システムが我が国の地域冷暖房の始まりであったが、ここ30年近くの間、百数十地区に導入されるに至った。

これらの諸施設は、ヨーロッパのシステムと比較して歴史的な背景もあって小規模である。しかしながら、その投資回収年数が20年近くかかるシステムが多いことから判るように、社会的にも重要なインフラの一つであることは間違いない。当然のことではあるが、諸制度の改定や技術発展に伴って、上記システムにおいても色々な新しい試みがなされている。本号の特集として、地域熱供給を取りあげ、新動向にスポットを当ててみた。

取りあげたテーマの中には、特定電気事業制度という規制緩和の下での新しい事業展開、海水による未利用エネルギーや都市ガス圧力エネルギー回収発電などを活用したシステムの他に、大型火力発電所の排熱を

活用した例を取りあげた。発電所排熱の地域冷暖房システムへの活用は、ヨーロッパでは常識となっているが、我が国においては、現時点で和歌山の例が唯一のシステムである。従って本特集では、将来計画として同種の発電所排熱利用という方式が核となる札幌でのプロジェクトも紹介頂くこととした。また、世界で2番目に高層なクアラ Lumpur のツインビルにおけるシステムも取りあげ、内容の充実を計ったが御参考になれば幸いである。

また、展望・解説欄では原子力の社会的合意性という重要な課題の他に、低品位炭の液化技術というテーマを取りあげることができた。後者は次号と合わせて、2回に分割して掲載が予定されている。

研究論文3編の他に、水素エネルギー国際会議の見聞記、原子力政策関連の書評、電気の使い方についての談話室など、バラエティに富む内容を織り込むことができたと思っている。

執筆者の方々の御努力に加えて、幅広いジャンルにまたがる編集委員会のメンバーの方々の御協力に対しこの場をかりてお礼申しあげたい。

伊 東 弘 一

(大阪府立大学工学部エネルギー機械工学科教授)

協賛行事ごあんない

「第27回ガスタービンセミナー」について

〔主 催〕 (株)日本ガスタービン学会
 〔協 賛〕 火力原子力発電技術協会、電気学会 他
 〔日 時〕 平成11年1月21日(木)・22日(金)
 〔場 所〕 東京ガス(株)本社2階大会議室
 (港区海岸1-5-20, TEL 03-3433-2111)
 〔テーマ〕 「地球環境に優しいガスタービンを目指して」

〔申込先〕 (株)日本ガスタービン学会
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-13-402
 TEL 03-3365-0095 FAX 03-3365-0387
 ホームページ
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gtsi/>